

東和便り



第7号 非行防止教室号
2014.6.3 東和中学校

5月27日(火)、中間テスト2日目終了後、「非行防止教室」実施しました！

子どもから大人へ移行する時期を思春期と言います。そして、中学生は、思春期のまっただ中にいます。この時期に、大人の真似事をしてみたくなったり、友達から誘われたりして、たばこやお酒などの誘惑に負け、結果的に自分自身の体や心を損なってしまう場合があります。そんなときに、ダメなことはダメと、自分でしっかり判断する力が必要になります。

本年度も、和歌山県和歌山東警察署から二人の警察官の方に来ていただき、警察官の立場から、少年非行の現状をパワーポイントを用いて話していただきました。

深夜徘徊、飲酒、喫煙、怠学、窃盗(万引き)、薬物乱用、ネット犯罪(出会い系サイト、爆破予告、ブログへの悪意ある書き込み等)、いじめ等、具体的な例を挙げながら、大変、わかりやすく伝えていただきました。

この特設授業から、決まりやルールを守ること、ダメなことはダメと判断できる力は、自分を大切にすることにつながることで、自分を大切にできる人は他人を大切にできるということを教えていただきました。



和歌山東警察署からの講師



パワーポイントを使った説明



人を大切に、自分を大切に！



生徒会長のお礼の言葉

※朝の読書活動をみんなで充実させましょう！

4月から、毎日、校内を歩いていると、去年までと比べて、非常に校内がきれいになっていることがわかります。アメやガムの食べかすがほとんどない、生徒玄関の靴も下足庫にきちんと並べられています。これらのことから決まりやルール、マナーを守ろうという意識(規範意識)が高い生徒が多いことがわかります。この特設授業の後の感想文から、子ども達の規範意識がより高まったと感じました。うれしいことです。
学校長 東方美喜夫

生徒の感想文より



○今日の話聞いて、一番、自分に関わりがあるのは、いじめやインターネットのことだと思いました。私の家にはパソコンがあります。母の付き添いのもとですが、好きなように使うことができます。LINEやサイトなどは使っていませんが、その中で、いじめや悪口などもあることがわかりました。LINEなどは、とても楽しめるものらしいですが、その中で、誰かが嫌な気分になることがあることがいけないと思います。

…いじめをする人は、「ただの遊び」や「これくらい」と思ってやっていますが、いじめを受けている人は、とても悲しく、心のつらさも大きいと思います。…「自分がイヤだと思うことは人にしない」。とても基本のことだとは思いますが、このことを守れば、イヤな思いをする人は少なくなると思います。(1年女子)

○喫煙をしていた人の肺が、元気な人の肺とあまりにも違うので驚いた。死亡する人の数も約6倍で、喫煙を改めて恐ろしいと思った。窃盗も、5円チョコ1枚を盗んだだけで窃盗になることもわかった。薬物も、覚醒剤やMDMAなどいろいろな種類があり、その一つ一つにも様々な別名があることを学んだ。和歌山にも身近に薬物が売られていて、買った中学生がいたことも知り、それまでは、自分に関係のないことと思ってた薬物が、そうでないことがわかった。いじめは、いじめをした側ではなく、いじめを受けた側の気持ちで、いじめになることを知った。いじめが理由で死ぬ人や教室を爆発させた人もいる、周りから見れば、その程度で、と思うかもしれないけれど、その人にとっては、とても辛いことだったと思う。「いじめはしない」、「いじめている人がいたら止める」、「いじめられている人がいたら守る」、ということが大切だと思った。(2年男子)

○私たち中学生は、こんな犯罪をするわけがないし、巻き込まれないと思っていたけど、今回の特設授業で、大きな間違いだと気づかされました。自分では、犯罪を犯したつもりはなくても、犯罪になるなんて、とても恐ろしいと思います。もっと、もっと学習して、規範意識を高めていって、善し悪しの区別をしっかりとつけることができるようにしなければいけないと、改めて思いました。特に、喫煙、飲酒は身近なものなので、もし、誘われたりしてもぜったいに断りません。(3年女子)

※朝の読書活動をみんなで充実させましょう！

※朝の読書活動をみんなで充実させましょう！